

万吉だより

MA GECHI NEWS

第 16 号 平成 24(2012) 年 3 月

博物館開館 10 周年

館長 池上 悟

本年、平成 23 年は、平成 14 年の立正大学博物館開館から 10 周年である。第 27 代立正大学学長を務められた名誉教授である坂詰秀一博士の尽力の成果であり、博物館開設は立正生活半世紀を過ごされた博士の宿願であった。

博物館開館当時、未だ学部別 2 校地固定制は実行されてはおらず、仏教・文学・経済・経営学部の 1・2 年生も、法学・社会福祉・地球環境科学部の学生とともに 2 年間に熊谷校地で過ごす体制であった。昭和 41 年の熊谷校地における教養部開設以来の伝統を 40 年を経ても保っていた。

大学博物館の開設は、博物館学芸員を目指す学生の実践教育の場として機能しており、博物館学芸員の資格取得を目指す学生は圧倒的に文学部、次いで地球環境科学部、仏教学部に認められ、その他の学部においてはごく僅かである。

平成 18 年には仏教・文学部学生の 4 年大崎一貫教育体制がはじまり、翌平成 19 年からは両学部の学生は熊谷校舎に所属しなくなった。この体制は、本年で 5 年を経過することとなる。

博物館が所在する熊谷校地における学芸員資格取得希望学生の極端な減少は、博物館運営にも大きな影響を与えている。企画展・特別展における来観者、関連講演会への参加者の激減であり、従来の方針を転換せざるを得ない現状である。来観者の減少は博物館運営も活性化を欠き、通常業務の遂行にも支障を来す面も感じられるところである。

大学における博物館の開設は高く評価される場所ではあるが、満身に運営されてこそ意義あるところである。開設 10 年を経て、熊谷校地における博物館をめぐる環境は大きく変化した。博物館の開設場所、運営の内容、学芸員の任用など再検討すべき時期に至ったものと認識される。

収蔵資料紹介

常設展示のなかで古代窯業遺跡関係の資料が多数あります。立正大学考古学研究室が昭和 30 年代～50 年代にかけて、東日本の窯業遺跡を中心に調査を行って収集した資料です。窯跡からは、須恵器の坏・皿・甕・壺などの日用什器や、瓦・瓦塔・硯などが出土しています。

今回の資料紹介では、瓦塔・瓦堂について紹介します。

瓦塔は、高さ 1～2m ぐらいの 5 層塔（7 層の例もある）で、材質は粘土で土師質・須恵質に焼成されたもので、主に奈良・平安時代に造られました。瓦堂は 1 層のもので、基本的に瓦塔と同じ造りになります。

構造は、下から基壇部、軸部、斗拱部、屋蓋部、相輪部に分れます。

造立の目的は、1・寺院建立に際し予定地に造って浄財を勧募するためという「衆縁勧募説」、2・塔婆信仰と同様なものとする「造塔信仰説」、3・木造高層塔婆の代わりに造立したとする「塔婆代

用説」、4・墓碑のごとく墳墓の表徴とする「想定墳墓説」、5・供養塔のごとく墓辺や墓上に造立されたとする「墳墓標識説」などがあります。

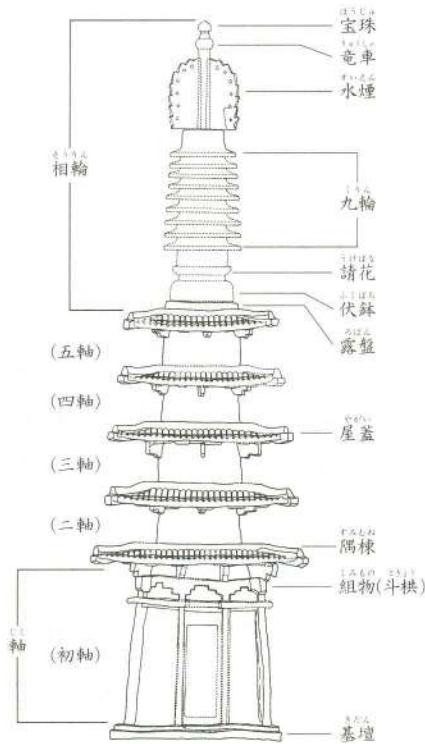
紹介する資料は、群馬県桐生市菱から出土した瓦堂、埼玉県比企郡鳩山町虫草山窯跡・新沼窯跡から出土した瓦塔です。

群馬県桐生市菱出土の瓦堂は、現存高 24.0cm、軸部最大高 16.2cm、幅 21.0cm、屋蓋部最大高 8.7cm、幅 24.0cm の大きさで、色調は暗灰褐色を呈しています。軸部は 2 間の様子を表し、屋蓋部は、屋根面の途中で軒先のように葺き止め、新たに下屋根を葺く、段葺の屋根であるしころぶき鋸葺を表現しています。また瓦の表現は半裁竹管状の工具で表現され、一つの瓦の大きさは最大で長さ 2.2cm、幅 7.0mm です。

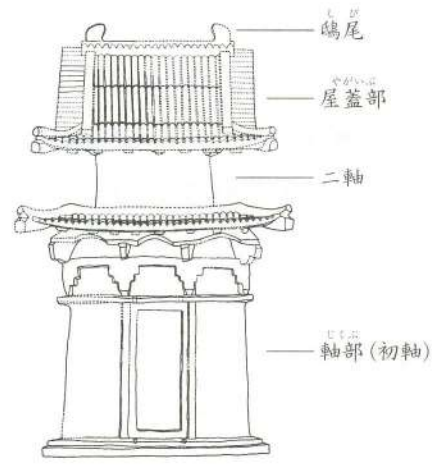
虫草山窯跡は、埼玉県比企郡鳩山町に所在し、武蔵国分寺の塔再建時に瓦を供給した南比企窯跡群の一つです。

瓦塔は、屋蓋部の破片が 2 点出土しています。大きさは、1 が最大縦 7.0cm、横 6.5cm、2 が最大縦 10.2cm、横 5.5cm で、色調は 1 が暗灰褐色、2 が灰褐色を呈しています。瓦部分は 1 が最大長 2.1cm、幅 8.0mm で、2 が最大長 2.1cm、幅 6.0mm で、半裁竹管状の工具で表現されています。また、1 の字瓦（軒の先端部）を表現したと思われる 1 条の線刻が見られます。

新沼窯跡は、虫草山窯跡と同じく埼玉県比企郡



瓦塔部分名称図



瓦堂部分名称図

※『埼玉の瓦塔 資料館ガイドブックNo.11』（埼玉県立歴史資料館 平成 6 年 7 月）より一部加筆転載

鳩山町に所在します。

瓦塔は、1点のほぼ完形である屋蓋部分(1)と6点の屋蓋部分破片(2~7)、5点の軸部破片(8~12)の合計12点が出土しています。

1は、最大縦40.8cm、横43.6cm、高さ8.0cm、中心部の方形部の最大縦16.5cm、横17.5cm、穴の最大径8.7cmを測ります。色調は明茶褐色を呈しています。瓦部分の一つの大きさは最大長3.0cm、幅1.0cmで、写真正面部分および向かって右側の屋根の軒先の部分は半裁竹管状の工具で、他は横一線で区画しただけです。

2~7は、屋蓋部分の破片資料です。それぞれの大きさは2最大縦21.5cm、横12.7cm、高5.6cm、3最大縦4.1cm、横4.1cm、4最大縦8.0cm、横12.2cm、5最大縦12.0cm、横9.2cm、6最大縦17.8cm、横24.3cm、高6.2cm、7最大縦8.7cm、

横4.9cmを測ります。7の隅棟先端部には鬼瓦の表現が見られます。色調はいずれも灰褐色を呈します。

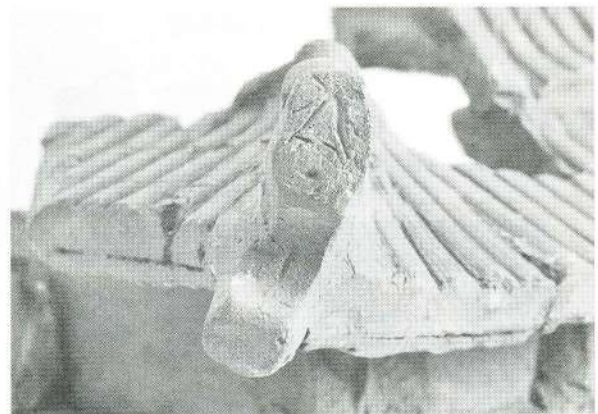
8~12は、軸部分の破片資料です。それぞれの大きさは、8最大縦3.0cm、横8.9cm、高3.1cm、9最大縦5.2cm、横4.3cm、厚さ2.4cm、10最大縦9.5cm、横5.6cm、厚さ2.6cm、11最大縦8.5cm、横9.0cm、厚さ3.0cm、12最大縦11.5cm、横14.7cm、厚さ1.0cmを測ります。8は斗?の部分で、色調は明橙褐色を呈します。9~12の色調は灰褐色を呈します。

古代の瓦塔は全国で約200カ所から出土していますが、その大半が、関東・北陸・東海地方に集中しています。埼玉県では約50カ所の遺跡から出土しており瓦塔造立が盛んに行われたことが分かります。

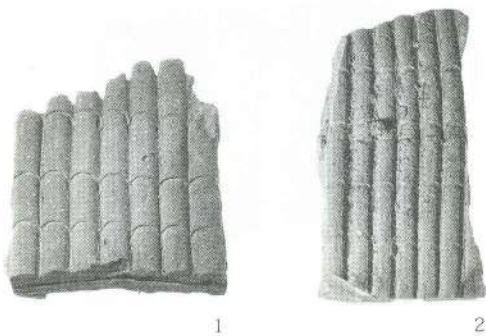
(学芸員 内田勇樹)



瓦堂 (群馬県桐生市菱遺跡)



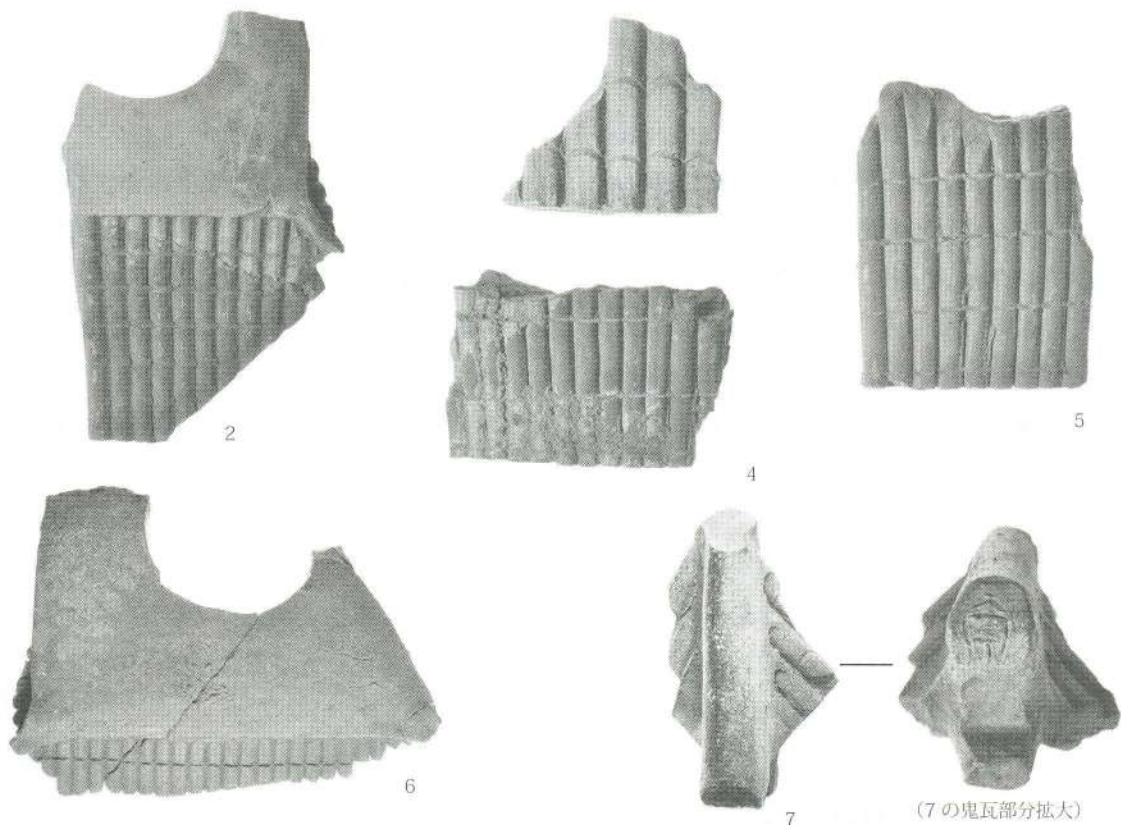
瓦堂の鬼瓦が表現されている部分
(群馬県桐生市菱遺跡)



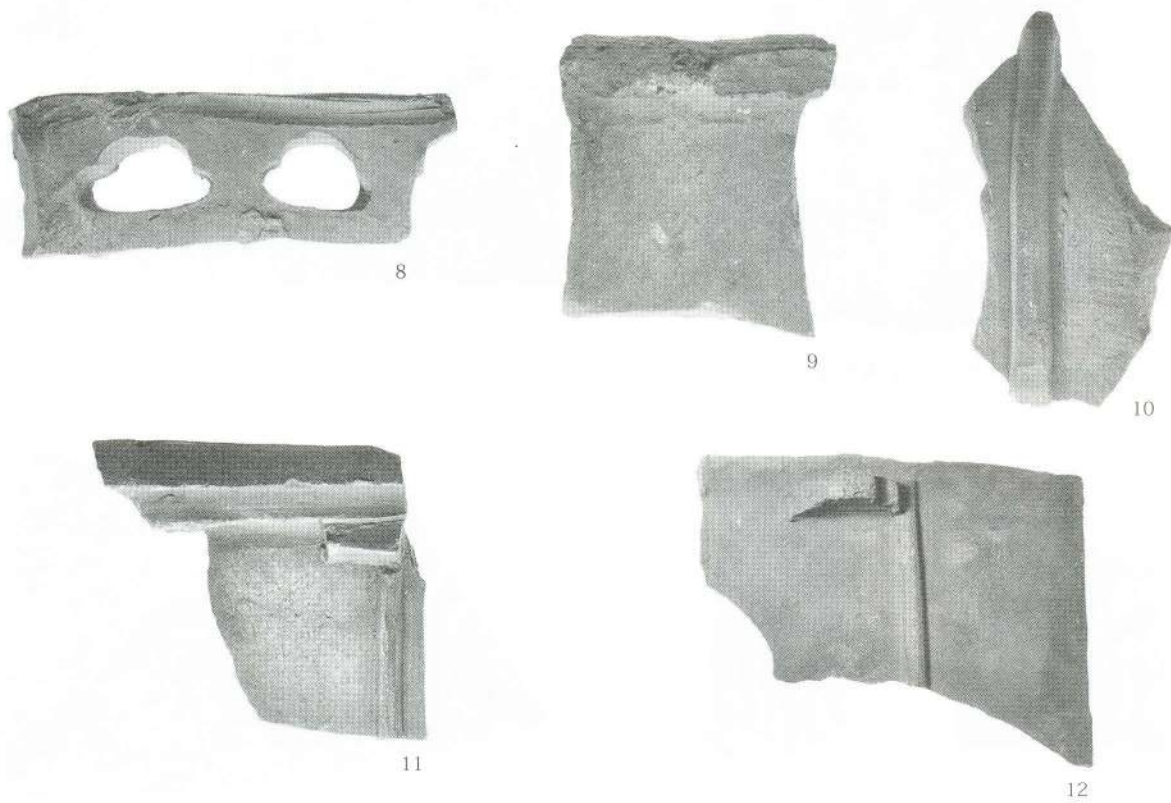
瓦塔の屋蓋部分 (埼玉県鳩山町虫草山窯跡)



瓦塔の屋蓋部分 (埼玉県鳩山町新沼窯跡)



瓦塔の屋蓋部分 (埼玉県鳩山町新沼窯跡)



瓦塔の軸部分 (埼玉県鳩山町新沼窯跡)

寄贈資料

平成23年10月に坂詰秀一博士（元立正大学学長・前博物館館長）より、文献及び絵馬・ネパール関連の以下の資料を寄贈して頂きました。今後整理を行って活用していきたいと思ひます。

- 文献資料…3,829点
 - 雑誌…1,509冊
 - 報告書…33冊
 - 図録…138冊
 - 単行本…13冊
 - 年報…9冊
 - 会報…21冊
 - 紀要…2冊
 - 資料集…35冊
 - 抜刷…2,005冊
 - 地名表…5冊
 - 要覧…6冊
 - 論集…1冊

- 名簿…5冊
- 文献目録…10冊
- パンフレット…1冊
- リーフレット…34冊
- スクラップ…2冊

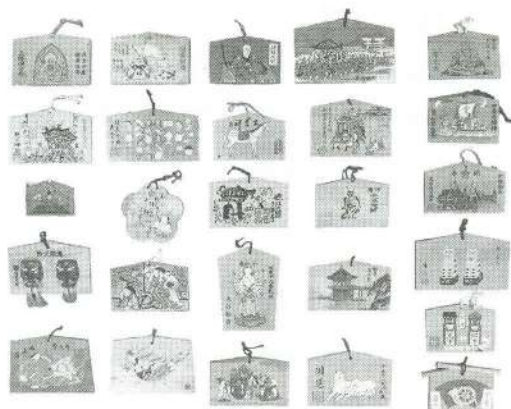
- 写真資料…12枚
 - 写真…12枚

- ネパール関連資料…13点
 - パイプ…1点
 - 祭り（プジャ）の蓋…1点
 - 灰皿…1点
 - 木製品…4点
 - 布製仏像画…1点
 - カバン…3点
 - トランクケース…2点

- 絵馬資料…155点



水タバコ用のパイプ
(左写真；全体 上写真；軸部拡大)



絵馬



祭り（プジャ）の蓋
(ネパール、タライ（タウリハワー町）、ティラウラコットで採集、1977年)

NEWS

入館者数

平成 24 年 1 月 6 日から 3 月 31 日までの入館者数は 168 名です。

1 月 (17 日間) …20 名、2 月 (18 日間) …95 名、3 月 (23 日間) …53 名

平成 23 年度の入館者数は 1,504 名で、開館日数は 211 日でした。入館者の内訳は、一般 760 名、本学学生 269 名、本学教職員 17 名、高校生以下 161 名、オープンキャンパス 297 名でした。

資料貸出

平成 23 年度は以下の資料の貸出を行いました。

横浜市歴史資料館

・吉田格コレクション骨角器 4 点
(平成 23 年 11 月 30 日～平成 24 年 2 月 14 日)

熊谷市立熊谷図書館美術・郷土展示室

・熊谷校地内遺跡写真 10 枚 (デジタルデータ)
(平成 24 年 3 月 30 日)

土器焼き

昨年に引き続き平成 23 年度の土器焼きを熊谷キャンパスにて行いました。

土器焼きは、文学部史学科の「考古学実習 6」(学部 4 年生対象)の一環で行われたもので、博物館協力のもと熊谷キャンパスの敷地内で 10 月 8 日(土)・9 日(日)の 2 日間にかけて行いました。

今年度は、考古学専攻生 8 名と大学院生 3 名が参加し、担当講師である竹花宏之先生(立正大学文学部非常勤講師)の指導の下、野焼きと覆い焼の 2 つの方法で土器焼を行いました。

土器は、縄文時代の土器をモデルとし、大崎キャンパスにおいて考古学実習生が製作し、乾燥を十分に行ったのち、焼成 1 週間前に博物館に搬入し、

団体見学者；熊谷市初夏の文化財巡り、立正中・高父兄会、明和高等学校、大井高等学校、彩の国いきがいがい大学、太平ツアー

出版物

平成 23 年度下半期は、下記の出版物を刊行しました。

- ・『万吉だより』第 15 号
- ・『万吉だより』第 16 号

町田市立博物館

・本町田遺跡出土石器 75 点
(平成 24 年 3 月 9 日～平成 24 年 5 月 31 日)

日陰で天日干しを行い、焼成しました。

野焼きは、20～30cm 掘り窪めた土坑で、藁で土器全体を覆ったあと、藁灰を全体に被せて、藁に着火し焼成します。着火した後は、15 時間ほどそのままにしておきます。昨年度は、9 時間の焼成でしたが、今年度は、16 時間ほど焼成を行いました。内部に火が行き渡らずに焼成不足となってしまいました。

野焼きは、覆い焼と同じく 20～30cm の土坑を作ります。火床を作りながら土坑周辺に製作した土器を並べ、徐々に温めながら火床に近づけていきます。火床が十分に出来たら、土器を焼成します。土器の全体が変色してきたら小薪をくべて

焼成します。

土器の全体が煤で黒色に変化したところで、萱で一気に焼き上げます。

野焼きは、破損する土器も無く、実習生の製作した土器は無事に焼き上がりました。



覆い焼きの様子①



覆い焼きの様子②



野焼きの様子①



野焼きの様子②



野焼きの様子③



土器焼き参加実習生

見学者の声

当館では、来館者の皆様の皆様の意見を反映する為メッセージ箱を備えております。下記のご意見は寄せられたご意見から事務局で集約したものです。貴重なご意見ありがとうございました。今後の博物館運営に役立たせて頂きたいと思っております。

・博物館を初めて見学しました。構内に博物館があることを知りませんでした。

(県内・本学学生・20代男性)

・考古学以外の資料についても見学できるようになったら良いと思います。

(県内・本学学生・20代女性)

・窯跡の資料を見に来館しました。豊富な資料を拝見することができ、良かったです。

(県内・一般・40代男性)

・釣鐘がたくさんあって驚きました。各国の釣鐘がみれておもしろかったです。

(県内・一般・50代女性)

・縄文時代にあのような手の込んだ土器などが作られていたことに驚きました。

(県内・一般・60代女性)

・立正大学の歴史が非常に古いものとわかり、大変興味深く見学させて頂きました。

(県内・一般・60代男性)

利用案内

所在地：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

立正大学熊谷キャンパス内

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

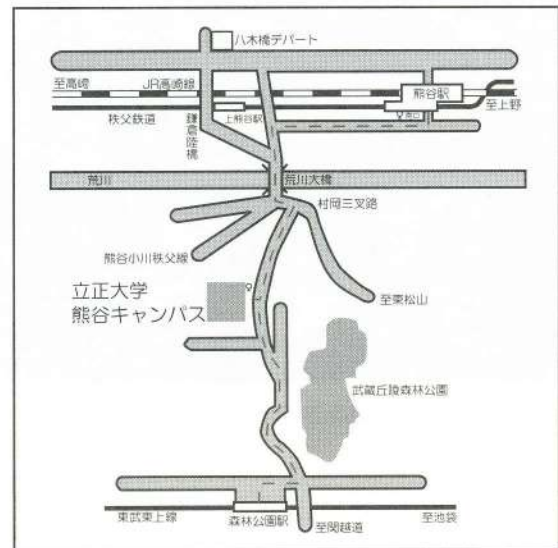
開館日：月・水・木・金・土曜日（大学休業中を除く）

開館時間：10：00～16：00

※休館日（火・日・祝日）及び大学休業中（夏・冬・春期休暇等）に見学を希望する方は、事前に博物館あるいは総務部総務課（048 - 536 - 6010）にご連絡下さい。

交通機関：① JR 高崎線、上越・長野線幹線、秩父鉄道「熊谷駅」下車。南口より立正大学行バス（国際十王交通）で約 10 分。

② 東武東上線「森林公園駅」下車。北口より立正大学行バス（国際十王交通）で約 12 分。



あとがき

東日本大震災から 1 年が過ぎました。被災地は瓦礫などが撤去されましたが、今だ復興したといえる状況ではありません。被災地の博物館では、津波で被害にあった資料の復元・整理が行われています。歴史的な大災害の記録としても後世にしっかりと伝えていかなければいけないことと思います。今後も復興のために出来ることをしていきたいと思っております。

(内田)

立正大学博物館館報 万吉だより 第 16 号

平成 24 (2012) 年 3 月 31 日発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

URL : <http://www.ris.ac.jp/museum/index>

題字揮毫 田淵観斎（立正大学名誉教授）

(印刷：光写真印刷株式会社)